平成28年度　矢掛町立川面小学校学校評価書

校長　　渡 辺 英 信　　印

本校のミッション
・確かな学力を培い豊かな心と健やかな体を備えた，たくましい児童を育てる「明るく元気のある学校づくり」を行う。 ・長く培われた伝統を踏まえ，川面地区住民の教育に対する熱意に応える「信頼される学校づくり」を行う。

学級数	7学級	児童（生徒・園児）数	91人
職員数	12人	家庭数	67戸
学校関係者評価委員	川上　義弘　（川面公民館長）　池田　喬（子どもを守る会会長）　本嵜　広信　（PTA会長） 池尻　文彦（PTA副会長）　増田　典子（前公民館主事）　赤木　恒雄（倉敷芸術科学大学教授）		
専門評価委員	諏訪　英広（兵庫教育大学准教授）　赤木　恒雄（倉敷芸術科学大学教授）		

A　成果をあげている　B　ほぼ成果をあげている　C　あまり成果をあげていない　D　成果をあげていない

	領域	中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自己評価	評価
1	考える子の育成	確かに学ぶ子どもを育てる。	日々，わかりやすい授業を展開し，それぞれの教科の基礎・基本の定着を図る。 児童一人ひとりの実態を把握し，特に，困り感のある児童に的確な支援を行う。	岡山型学習指導のスタンダードをもとに充実した授業を1時間でも多く，積み重ねていく。 ユニバーサルデザイン化された授業を意識的に実践していく。	○児童へのアンケート（国語）で「授業の内容がよくわかる」の回答が増えているか。 ○各教科の単元テストで，平均点が80点を超えたか。 ○“焦点化”“視覚化”“共有化”された授業により，全員の児童が一定の単位時間，反応できているか。（客観的な視点で確認する。）	＊児童へのアンケート（7月，11月国語科実施） ＊授業がわかりやすい（全教科）　児童　96％ ＊多くの学年の多くの単元テストで，平均点80点を超えることができた。 ＊学級に必要な支援を学習指導案に明記し，“焦点化・視覚化・共有化”を意識した授業がより多く展開することができた。	B
2		意欲的に学ぶ子どもを育てる。	児童が，主体的に学習する態度を育成するとともに，自分の考えと友だちの考えとの関わりにより，コミュニケーション能力の向上を図る。	**“どのように学ぶか”をアクティブ・ラーニングの視点から授業改善を図る。 主体的に判断し，自ら問いを立ててその解決を目指し，他者と協働しながら新たな価値を生み出していく力を育成する。**	**○見通しを持って粘り強く取り組み，自らの学習活動を振り返って次へつなげることができたか。 ○他者との協働や外界との相互作用を通じて，自らの考えを広げ深めることができたか。（振り返りのかわもの観点で評価）**	＊1日1回以上発表している児童　94％ ＊どの学年においても，多くの授業でペアやグループ学習を計画的にとりいれていくことができた。考えの交流まで深めることはできていないが，話の内容を受け入れるまではできつつある。 ＊時間の確保が厳しい現状であるが，学年相応に3つの観点で振り返りがスムーズにできる児童が増えてきつつある。	B
3		感性・想像力・言語力の豊かな子どもを育てる。	読書に親しむ児童の育成を目指す。	読書の楽しさが味わえるように，読書タイムやブックルの活用，低学年の読み聞かせ等により，本と触れ合う場を設定する。 全校での貸し出し数の目標を図書委員会で設定する。	○読書の楽しさを実感している児童が90％以上いるか。 ○設定した全校での貸し出し数（6000冊）の目標に達することができたか。	＊読書の時間が楽しみな児童　91％ ＊図書室の本の貸し出し冊数　2244冊 ブックルでの貸し出し冊数　1810冊(11/22現在) **＊最終（3／8）図書室貸し出し冊数 3432冊 ブックル貸し出し冊数 2771冊　計6203冊** ＊本の読み聞かせや児童による図書紹介をはじめ，読書ビンゴなど多くの工夫はできている。	B
4	やさしい子の育成	自分や友だちを大切にするやさしい心を育てる。	いじめや仲間はずれのないお互いを認め合える学級集団づくり，異学年との仲間づくりをする。	アセスやhyper-QUを活用して，各学級の課題を明確にしながら，望ましい集団づくりの取組をする。 高学年では，**長期宿泊体験活動をベースに互いを認め合う仲間づくりを推進していく。**	○学校が楽しいと答える児童が95％以上いるか。（昨年**93％**） **○事前・事後のアンケートをもとに児童の変容について分析する。（高学年）**	＊学校が楽しい　児童　93％　保護者　94％ ＊3・4年　アセス　5・6年　hyper-QU　実施 ＊全学年教育相談　（6・10月実施） ＊高学年の長期宿泊体験活動は，児童も保護者も大きな意義があったと実感している。アンケート結果からも，生活態度の変容や協力することへの意識など成果が出ている。	B
5		ふるさとを愛する心を育てる。	地域人材や教材を活用した授業を行ったり，地域行事への参加を奨励したりして，ふるさとを愛する心を育てる。	地域人材・教材を活用した授業をで**きるだけ多く実践**する。 **学年に応じた愛校心を育むために，日々の学習や活動，行事等の充実を図る。**	○各学年，地域教材を使った授業や，地域の方に指導していただく授業を**より多く**実施することができたか。 **○学校や地域を意識した活動が計画的に実施できたか。**	＊川面の良さを見つけた児童　97％ ＊特色がある教育活動ができている　保護者　89％ ＊これまでの活用表をもとに，各学年で計画的に授業を展開することができた。また，総合的な学習の時間の見直しを図った学年もあり，新たな交流に出会うこともできた。（4学年：社会福祉関係・西川面サロン，3学年：三王サロン・地域の歴史を知る方他）	A
6		発達段階に応じた人権感覚を育てる。	日頃接することのない人やいろいろな立場の人にやさしく接することができる児童を育成する。	児童が，障害者や高齢者の方や他校の児童などと交流できる授業（活動）を，各学年で積極的に実施する。	○双方向による交流学習（お互いに意見や感想が言える学習）を年1回以上実施することができたか。	1年：子ども祭り・昔遊び・幼稚園児との交流 2年：子ども祭り・幼稚園児との交流・学区探検 3年：ホタル博士・三王サロン（高齢者） 4年：合同学習・福祉体験・西川面サロン（高齢者） 5年：幼稚園児との交流・合同海の学習 6年：西備支援学校との交流・修学旅行班別行動	A
7	強い子の育成	進んで体を鍛えようとする子どもを育てる。	外遊びをはじめ，さまざまな運動に意欲的に取り組もうとする児童を育成する。	**朝の姿勢体操**や業間時間のサーキット等の全校による運動を定期的に実施していく。 高学年を対象として，水泳と陸上の放課後練習を実施して，運動の楽しさを実感させ意欲をもたせる。	○90％以上の児童が休み時間には外で遊んだか。（昨年**85％**） ○水泳や陸上の練習へ多くの児童が各自の目標をもって意欲的に参加できたか。	＊朝の姿勢体操をプログラムに導入したため，全校で継続することができた。また，家庭との連携により，期間限定で家庭での運動も積極的に推進することができた。 ＊休み時間に外で遊ぶことができた児童は88％だった。 ＊水泳や陸上の記録会当日の参加は微増であったが，事前の練習には多くの児童が意欲的に参加することができた。特に，陸上については高学年の児童100％の参加だった。	B
8		基本的な生活習慣の定着を図る。	「矢掛町あ・は・は」運動，「早寝・早起き・朝ご飯」運動を充実させる。 学校の日常生活での生活習慣を身に付けさせる。	「校外でのあいさつ」や「それぞれの場でのはきものそろえ」を家庭と連携して指導・啓発する。 ほたるキラリ賞の観点をはっきりし，多くの児童の良い点を取り上げて，全校の場で称揚する。	○相手に心の伝わるあいさつができるようになったか。 ○多くの月で，校内表彰される児童（グループ・学級）が出たか。	＊あいさつ　児童　96％　保護者　90％ ＊返事　　児童　95％　保護者　80％ ＊はきものそろえ　児童　89％　保護者　66％ ＊声の大きさはまちまちであるが，相手を意識したあいさつのできる児童が大幅に増えた。靴箱のはきものはそろえることができるが，トイレのスリッパについては，継続的な取組が必要である。 ＊あいさつ・家庭学習・清掃・体力作り等，さまざまな観点での表彰が増えつつある。	B
9	開かれ・信頼される学校	積極的に情報交換を行い，開かれた学校づくりを推進する。	毎月地区の全戸に学校だよりを配布したり，ホームページの更新をしたり，PTA行事や各種委員会を開いたりして，地域・家庭と連携を図る。	できるだけ多くの機会を捉えて，保護者や地域の方々とコミュニケーションを図る。得た情報等は，校内で共通理解を図り，改善の参考としたり，発信したりする。	○家庭や地域との交流の機会を積極的に設定することができたか。また，日々の学校の様子や取組を　学校だよりやホームページ，学級通信等で機会を捉えて発信することができたか。	＊学校・学級通信は定期的に発信され，常に学校の様子や情報を提供することができた。学校の要望をたびたび伝える等，双方向のやりとりができるよう工夫を加えた。	B
10		教員としての資質向上を目指すために様々な研修機会を設定する。	全教職員の共通理解のもと，各自が創意工夫した取組や実践を重ねていくことで，教員としての資質向上を図る。	**文部科学省指定事業の人権教育について，全職員が個々の人権意識を磨きながら，“チーム川面”として意欲的に研究・研修を重ねていき，意義ある実践へとつなげていく。**	**○研究集録のまとめや1月末の研究発表会での外部からの指導や講評により，成果や課題を把握する。**	＊研究主任を中心に研究集録や公開授業について研修を重ねることができた。児童の変容を確かめたり，教師の指導力の向上を図ったりするため，2学期より自主公開の研究授業を数回実施できた。 ＊人権にかかる講演や研修等を重ねたため，児童だけでなく教職員の人権意識も高まりつつある。	A

分析・改善方策

・児童だけでなく，職員もあいさつをはじめ，相手や周囲への意識を大切にすることのステップアップができつつあるので，“チーム川面”としての組織力が高まり，より一層充実した教育活動が展開できている。地道な継続に努めたい。
・岡山型学習指導のスタンダードの定着した授業がどの学級でも日常的に展開することができ，児童は着実に学力を伸ばしつつある。今後，主体的・協働的な学びへ段階的に取り組むことを全職員で共有していく必要がある。
・個々の学力に応じた指導・支援について，内容の充実へ向け，人材を生かしながら計画的に進めていくことが大切である。家庭学習についても家庭との連携を生かす内容の工夫等を職員が主体的に関わっていきたい。
・温かく見守ってくれる地域や保護者の方々への感謝の気持ちとともに，相互のニーズに応じた支援や交流等，より広く深くかかわりを求めていくことが大切である。

学校関係者評価

・登下校の挨拶の声が大きくなったと感じる。今後も思いやりのある心を多くの人とのかかわりを通し，多くの機会をとらえて身に付けていってほしい。
・丁寧な指導が授業の中で大きな成果をあげている。集団での行事・新しい事への挑戦等で様々な角度からの指導が良く，授業中の一体感や反応する児童の姿がそれを証明している。読書指導の一層の充実を図りたい。
・小規模校であるから合同授業を実施している点については評価できる。どの単元を合同でするのか，原則を明確にしてはどうか。
・登校から下校までの時間を有効に使い，体を動かす指導が良い。地道な継続とともに記録会等への参加が増えることに期待したい。
・健全な成長を支えるのは，基本的生活習慣である。本来は家庭のしつけだが，マンネリにならないよう家庭の応援を得ながら，「あ・は・は運動」を中心に定着を図っていきたい。給食指導における挨拶の徹底も図るべきだろう。
・地域連携に大変な気配りをしているのが，学校便りや学級通信等から感じられる。参観日等保護者の参観はあるが，地域の参加は少ないように感じる。今後は呼びかけを工夫してみてはどうか。
・小学校の子どもと高齢者，世代を超えた相互が学べる交流がスタートした。今後の継続・発展に期待したい。

専 門 評 価			
評価項目	観　点	学校の現状（〇優れている点　△改善が望まれる点）	改善の方向性
1. 自己評価の状況	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	〇単年度目標に対する具体的な計画が比較的わかりやすく，教職員一人ひとりが取り組みやすいものになっている。また，前年度の評価を生かした新たな計画や積極的な実践が展開されつつある。 △達成基準に具体的な数値を多く取り入れているが，評価につながる根拠となっているか，疑問を感じる内容もある。	
2. 学校組織の経営	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題		
3　連携交流（学校・家庭・地域，学校間等）	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	〇学校や児童を支援しようとする家庭や地域の温かさに見守られ，安心・安全な学校づくりには最適な環境が整っている。この信頼関係をより深めるために，日々の細かな連携の積み重ねが大切である。 〇人権教育研究発表会の研究主題（サブテーマ）を“さまざまな人とのかかわりやコミュニケーションを通して”と設定したので，これまでの学習を見直すことができた。地道に築いてきたものが，学校側からの強い思いと働きかけで，意義深い交流や体験学習の実現となった。 △合同授業については，これまでの取組の継続により，それぞれの成果は出ているが，本校独自の働きかけがなく，職員間の連携が進む中，児童のつながりへと発展してほしい。	
4. 教育課題の現状認識と改善 コミュニケーション能力の向上	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	〇各学年の発達段階に応じて，授業を基本として，話す・聞く・話し合う等のコミュニケーション能力の育成に向け，具体的な取組ができつつある。書く活動を徹底しながら，ペアやグループによる話し合い活動を意識的に取り入れることができている。 △研究の経過や児童の実態について，今一つはっきりした形での教職員間の共有ができていないため，目指す方向性が明確でないように感じる。	
5. 学校の総合的な状況	①取組体制 ②方法の開発・共有 ③実践・実施 ④成果と課題	〇学力については，ここ3年間の授業改善の取組により，さまざまなテストや調査結果からも学習の基礎・基本となる力は着実に伸びつつある。ますますの授業改善の努力や家庭学習の取組の連携により，応用（活用）問題等の力も伸ばすことができるであろう。 〇研究の方向性に基づき，多くの交流や体験学習を意欲的に取り入れていったので，個々の児童の“やさしい心”はますます磨かれつつあるのではないだろうか。 〇姿勢体操の本格的な継続や業間・放課後の体力作りにかかる積極的な実践により，児童の健康への意識が高まりつつある。家庭の協力体制も手厚く，連携による実践が年々深まりつつある。	

来 年 度 の 重 点 ・ 方 針
〇やさしい子（徳）・・・個々が育んでいるやさしい心をより深めるため，人とかかわる体験や学習を意欲的に取り入れていく。 ⇒⇒⇒自分や友だちを大切にし，ふるさとを愛し，思いやりの心をもった児童を育てる。。 〇考える子（知）・・・個々の学力を着実に高めるため，日々の授業を充実し，個別のサポートを組織的に展開していく。 ⇒⇒⇒主体的・対話的で深い学びのある授業づくりとともに，家庭学習や読書の充実を図る。 〇強い子（体）・・・心に繋がる健康なからだをつくるため，さまざまな運動の場や機会を積極的に企画・実践していく。 ⇒⇒⇒家庭との連携により基本的な生活習慣の一層の定着を図り，体力作りを継続的に行う。 〇信頼（人）・・・学校（教職員）だけでなく，地域をはじめ多くの方々の指導・支援をいただきながら，将来へ向けての生きる力を総合的に育成していく。 ⇒⇒⇒感謝の気持ちを大切に，地域とともに生きていく学校づくりを目指す。